平成 25 年 10 月 9 日

第 1 回男女共同参画部門「女子会」報告

人材育成委員会　男女共同参画部門
副部門長　山田　明

人材育成委員会男女共同参画部門では、応用物理学会内における女性研究者同士の横の繋がり、ネットワーク作りが重要であるとの観点から、第 74 回応用物学会秋季学術講演会において「女性研究者ネットワーク女子会」を開催致しました。今回は第 1 回の会合であるため、旧男女共同参画委員会のメンバー、並びに春季講演会にて行った特別シンポジウム「応用物理分野で活躍する女性達～第 1 回太陽電池編～」に参加、ご連絡先を頂けた方を中心に参加を呼びかけました。会合には 14 名（女性 10 名、男性 4 名）の参加者があり、学会内におけるネットワークの必要性等について、幅広く意見交換を行いました。

学会内における女性研究者のネットワークの必要性については論を俟たないものの、話題は育休、産休のあり方にまでおよび、2 時間では多いと予想していた会合時間も時間切れとなるほど、盛り上がった討論となりました。国全体として男女共同参画事業が進んでいるものの、大学間・研究機関・企業間においてそのあり方には様々な違いがあり、お互いの情報交換、情報共有の重要性を改めて確認することができました。今回の会合に対しては、

- 委員会メンバーのみの会合か、一般参加も可能なのか分かりにくかった。
- 応用物理学会がこのような取り組みを行っていることを初めて知った。
- 社会人、大学院生を含めて、女性研究者の働き方について意見交換の機会があると良い。
- 産休、育休を取りながらも研究を続けて行くロールモデルを知りたい。

等の意見が出され、応用物理学会における「女子会」の必要性についてポジティブな意見を頂くことができました。

上記の意見交換を踏まえ、本年 12 月を目処に男女共同参画部門のメンバーが中心となり、女性研究者ネットワークの基礎となるためのメーリング・リストを 100 名程度集めることとしました。このリストを活用し、春季講演会で行う予定のシンポジウム「応用物理分野で活躍する女性達～第 2 回フォトニクス編～」への参加を呼びかけるとともに、第 2 回女性研究者・技術者ネットワーク女子会（オブジョ）を開催し、応用物理学会内における女性研究者の見える化を強力に推進して行く、との結論を得て閉会となりました。

以上